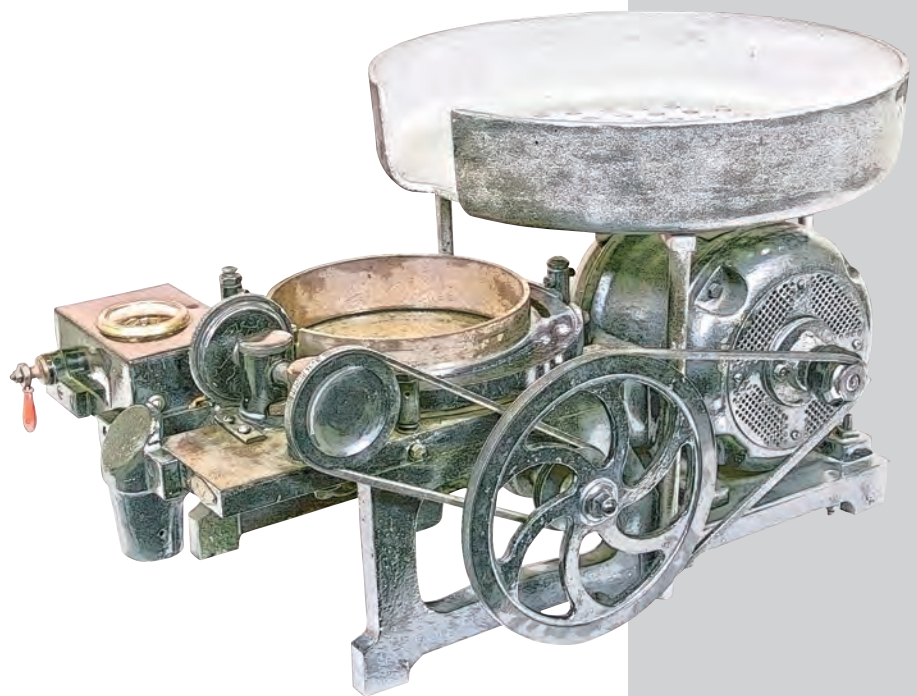


GLORY

# グローリー CSR 報告書 2016

Corporate Social Responsibility Report



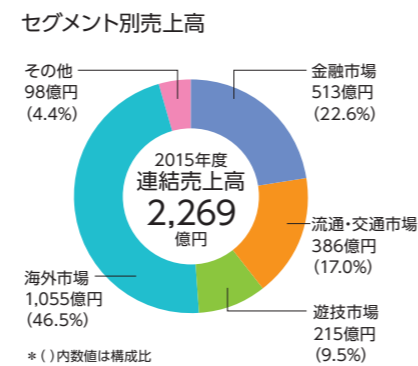
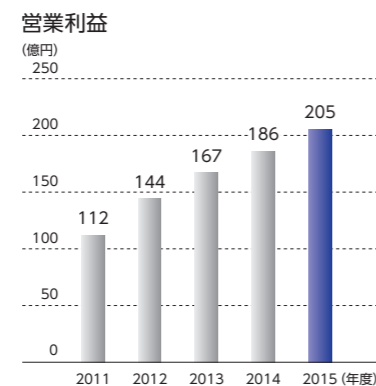
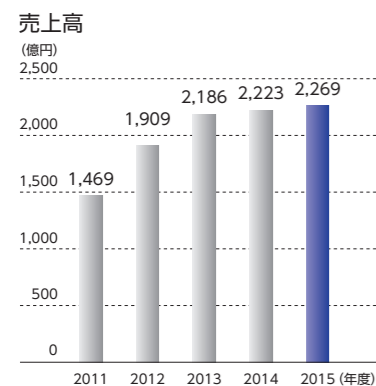
## 会社概要

商号	グローリー株式会社 GLORY LTD.	上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
創業	1918年(大正7年)3月	従業員数	3,244名(グループ総数 9,093名) ※ 2016年3月31日現在
設立	1944年(昭和19年)11月	事業内容	通貨処理機、情報処理機及び通貨端末機器、自動販売機、自動サービス機器などの開発・製造・販売・メンテナンス
資本金	12,892,947,600円		

## セグメント

	販売先	主要な製品および商品	
<b>金融市場</b> 	国内の金融機関 OEM先 等	オープン出納システム 窓口用紙幣・硬貨入金機 ATM用硬貨入金ユニット 多能式紙幣両替機	自動精査現金バス 重要物管理機 鍵管理機
<b>流通・交通市場</b> 	国内のスーパーマーケット 百貨店 警備輸送会社 鉄道会社 等	紙幣・硬貨レジつり銭機 売上入金機 多能式紙幣両替機 小型現金管理機	店舗入金機 コインロッカー 券売機
<b>遊技市場</b> 	国内の遊技場 (パチンコホール等)	カードシステム 紙幣搬送システム 賞品保管機	各台計数機 ホール会員管理システム 玉・メダル計数機
<b>海外市場</b> 	海外の金融機関 警備輸送会社 小売店 カジノ OEM先 等	窓口用紙幣入金機 紙幣整理機 ATM用紙幣・小切手入金ユニット 小型紙幣計数機	紙幣・硬貨レジつり銭機 紙幣・硬貨入金機 硬貨包装機
<b>その他</b> 	国内のたばこ販売店 たばこメーカー 病院 自治体 企業 等	たばこ販売機 当選金払出ユニット 診療費支払機	社員食堂システム 自書式投票用紙分類機

## 財務データ(連結)



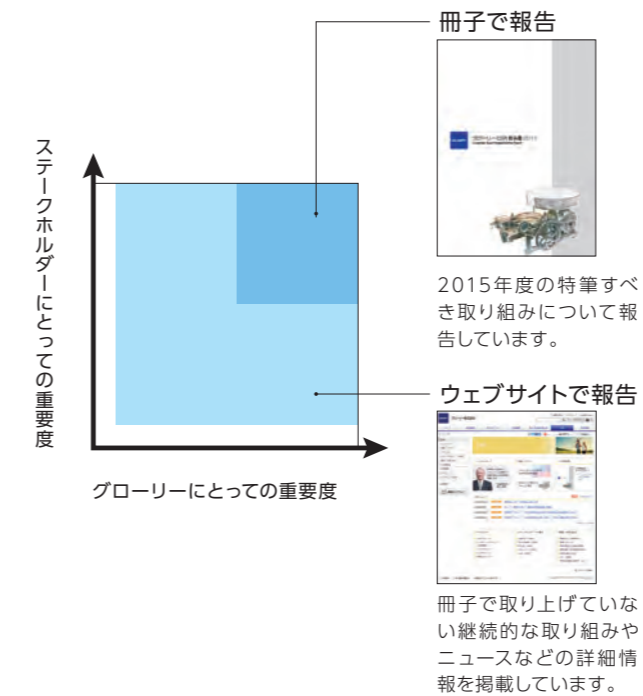
※2015年度より、在外子会社の収益および費用の換算方法を変更しています。この変更は遡及適用され、2014年度については遡及適用後の数値を記載しています。

## 編集方針

「グローリーCSR報告書2016」は、グローリー株式会社およびグループ会社の2015年度のCSRへの取り組み状況について、広くステークホルダーの皆さまにご理解いただくことを目的に発行するものです。

本報告書には、GRIサステナビリティ・レポート・ガイドラインによる標準開示項目の情報が記載されています。また、マテリアリティ(重要課題)については、GRIが定めているマテリアリティ特定のプロセスに沿って、現在、特定作業を進めています。

特集1では、バリューチェーンにおけるCSRの主な取り組みをステークホルダーごとにご紹介しています。また、特集2では、時代とともに歩みを進めてきたグローリー製品の歴史をご紹介します。さらに、環境、社会、ガバナンスに関して、2015年度の主な取り組みをご報告し、詳細情報はウェブサイトに記載しています。



### ■ 報告対象組織

グローリー株式会社の取り組みを掲載しています。グループ会社や特定の法人に限定される事項を報告する際には、その旨を明記しています。また、環境活動報告については、グローリー株式会社およびグループ会社のISO14001認証取得事業所を対象としています。

### ■ 報告対象期間

2015年度(2015年4月1日~2016年3月31日)  
(2016年4月以降の報告も一部に含んでいます。)

### ■ 発行

2016年6月

### ■ 参考にしたガイドライン

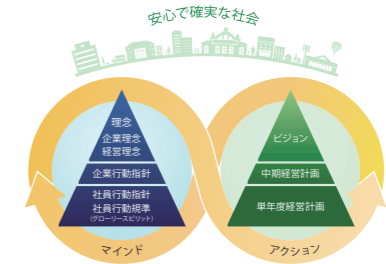
GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版」  
環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

## 目次

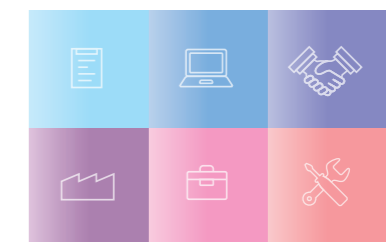
トップメッセージ ..... 3



企業理念と経営理念 ..... 5



特集1  
バリューチェーンにおける  
CSRの主な取り組み ..... 7



特集2  
時代とともに進化するグローリー製品 ..... 9



ガバナンス ..... 11

品質への取り組み ..... 13

人材への取り組み ..... 15

社会貢献への取り組み ..... 17

環境への取り組み ..... 19

ステークホルダーとの対話 ..... 21

第三者意見 ..... 22



## 長年培った技術力と ソリューション提案力で 持続可能な社会の実現に 貢献します

グローリー株式会社  
代表取締役社長

尾上 伸

### 人の役に立つモノづくりと結束力のDNA

当社は、1918年、電球製造装置の修理工場として従業員7名で創業いたしました。当時は、修理業務や下請けだけでは経営が安定せず、「いつか自社製品を持ちたい」という強い思いを胸に、さまざまな製品の開発に挑戦し続けておりました。

転機となったのは、大蔵省（現 財務省）造幣局からの硬貨計数機の開発依頼でした。「当時使用していた機械は輸入品で、大きく使いづらいうえメンテナンスもしにくい」ということがその理由だったそうです。当社としては全くの未知の分野でしたが、「自社製品開発の道を切り開くチャンス」と即座に引き受け、数カ月の試行錯誤の末、1950年に国産初の硬貨計数機を完成させました。

この硬貨計数機の開発を機に、当社は通貨処理機

のパイオニアとして、硬貨包装機や硬貨選別機、たばこ自動販売機、日送り装置付きコインロッカー等、国産初の製品を世に送り出してまいりました。「絶えず世の中にあるもの、人の役に立つものをつくり続ける」という創業以来の姿勢は、企業理念に掲げる「求める心とみんなの力」に込められ、今もなお、当社の企業風土・DNAとして脈々と受け継がれております。

こうした企業風土のもと事業を拡大し、そのなかで培ってきた独自のコア技術である「認識・識別技術」や「メカトロ技術」に加え、企画から開発、調達、生産、販売、保守にいたるまで、お客さまのニーズをいち早く形にするグループ一貫体制は、当社の大きな強みであると考えております。

### グローバル戦略と新たな挑戦

当社は、2018年に迎える創業100周年に、グループビジョンである「GLORYを世界のトップブランドに！」を実現するための共有目標として、「長期ビジョン2018」を策定いたしました。この長期ビジョン実現に向けた最終ステップとして、2015年4月からの3カ年を計画期間とした「2017中期経営計画」をスタートさせております。基本方針として、「長期ビジョン達成に向けた『顧客起点のモノづくり』による事業成長と収益性向上」を掲げ、各戦略を推進した結果、初年度であった2015年度は、国内事業、海外事業ともに業績は順調に推移いたしました。今年度は、3カ年計画の2年目を迎え、また創業100周年を目前に控えた重要な年度であると考えております。

当社グループは、世界100カ国以上で事業を展開しております。国や地域ごとに存在する多様なニーズや課題に対し、徹底した市場分析に基づく地域別戦略を推進するとともに、国内で培った独自技術やノウハウを活かし、厳正化や効率化をはじめ、付加価値の高い製品やソリューションを提供してまいります。

そうしたグローバル戦略を推進する一方で、通貨処理機事業以外の分野での新たな価値創造にも、積極的に取り組んでおります。なかでも、マーケットニーズの高まりが予想されるセキュリティー分野では、これまでのコア技術を応用し、顔認証技術などの新しい技術へと発展させる研究を進めております。既に、顔認証技術を活用し、キーを不要にしたホテル向け入室システムなどが実用化されております。業界最高レベルの認証精度による利便性と安全性を追求した技術は、今後もさまざまなシーンでの活用が見込めると期待しております。

### 多様性を尊重し持続可能な社会の実現へ

2014年、当社は国連グローバル・コンパクトに署名し、「人権・労働・環境・腐敗防止」の4分野10原則への準拠に努めております。この10原則は、当社グループの企業行動指針と共通の価値観を持つと考えております。

とりわけ、人権にかかわる「多様性の尊重＝ダイバーシティの推進」は、グローバル企業の一員として、重要視して取り組んでいるテーマの一つです。当社が今後さらに成長し、より広く社会に貢献していくためには、国籍や宗教、文化、価値観の異なる多様な人材が互いを認め合い、共通の目標に向かって一体となることが大切だと考えております。そこで、企業理念や企業行動指針等を掲載したハンドブック「私たちの指針」を8カ国語分用意し、グループ全社員への共有と浸透を図っております。

今後も、企業理念に基づいた経営を実践し、ステークホルダーの皆さまから信頼される企業グループとして、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

2016年6月



## 企業理念と経営理念

当社の企業理念には、お客さまや社会のニーズに対し不屈の精神で製品開発に取り組み、社会の発展に貢献することにより、持続的な企業の発展を目指すという思いが込められています。

この企業理念に基づき、社会と共生し、すべてのステークホルダーの皆さまに信頼され支持される健全で効率的な企業経営を推進することにより、継続的な企業価値の向上を図ります。

### 企業理念

私たちは「求める心とみんなの力」を結集し、  
セキュア（安心・確実）な社会の発展に貢献します

### 経営理念

- ・絶えざる開発の心で、お客さまから信頼される製品とサービスを提供します
- ・個性の尊重とチームワークにより、活力ある企業グループをつくります
- ・良き企業市民として行動し、社会との共存・共生に努めます



## 『2017中期経営計画』

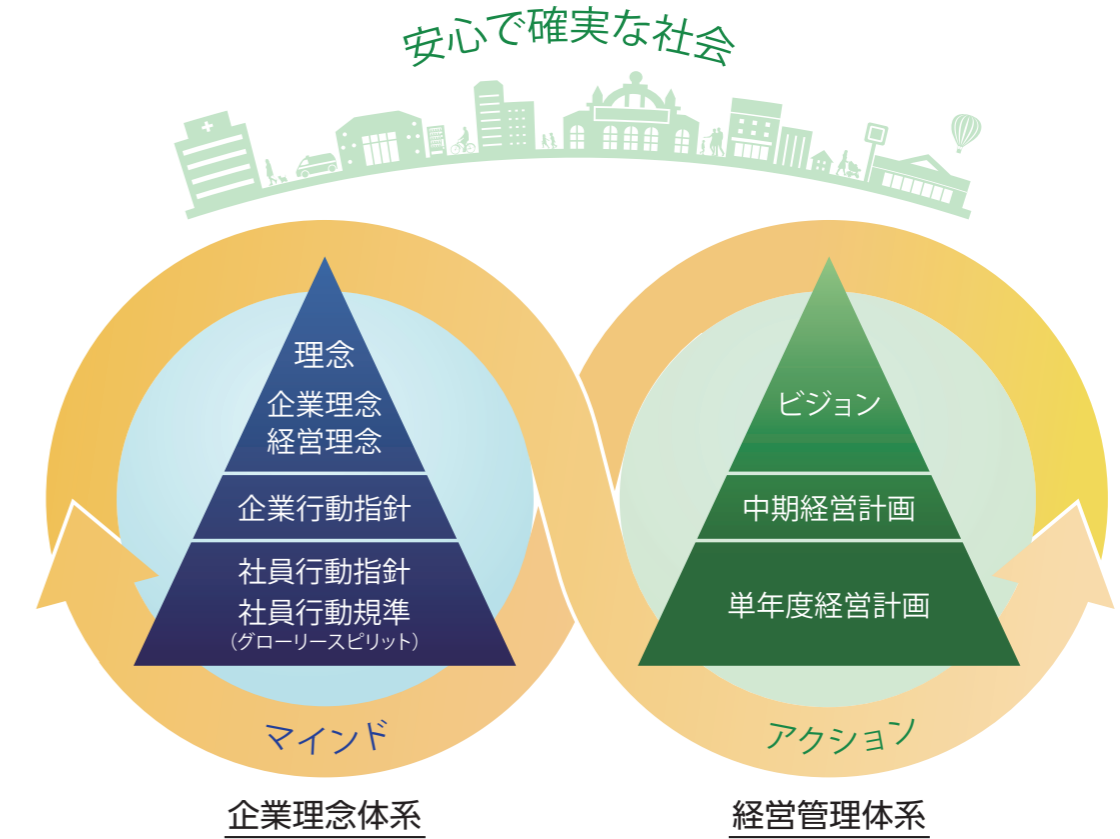
### 基本方針

長期ビジョン達成に向けた「顧客起点のモノづくり」による事業成長と収益性向上

	事業戦略	機能戦略	企業戦略
基本戦略	事業規模・領域の拡大による収益性向上	市場ニーズに応える製品及びサービスのタイムリーな提供	グループ経営基盤の強化
分野・領域	国内事業 海外事業	製品開発 生産・調達 品質保証	グループ・ガバナンス 人事 資本・財務 情報システム

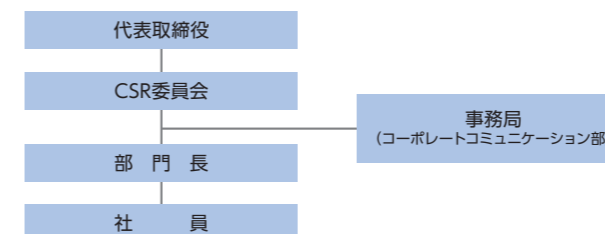
## グローリーが考えるCSRとは

当社グループのCSR(企業の社会的責任)は、企業理念を実現していくこと、すなわち、通貨処理機という公共性の高い製品やサービスを通じて、お客さまの効率化、厳正化ニーズに応え、安心で確実な社会の発展に貢献していくことです。



### CSR推進体制

当社グループはCSR経営を推進していくために、経営層から構成される「CSR委員会」を設置しています。委員会は年2回開催し、CSR経営に関する基本方針や基本計画、CSR活動に関する年度重点方針の策定などを行っています。



### CSR教育

当社グループでは、企業理念や経営理念、企業行動指針等を掲載したハンドブック「私たちの指針」をグループ全社員に配布しています。国内外のグループ全社員が企業理念の実現に向けた意識を共有するために、ハンドブックは8カ国語に対応しています。また、eラーニング形式によるCSR研修も実施しています。



ハンドブック「私たちの指針」

# バリューチェーンにおけるCSRの主な取り組み

当社グループのバリューチェーンにおけるステークホルダーごとの主な取り組みをご紹介します。

バリューチェーン

ステークホルダーごとの主な取り組み

Voice

## 企画

お客さまにご満足いただける新たな「製品」「ソリューション」を絶えず生み出し続けることがグローリーの使命です。商品企画部門では、常にお客さまの声を耳を傾け、次工程の開発部門と連携しながら商品を具現化しています。

### お客さま

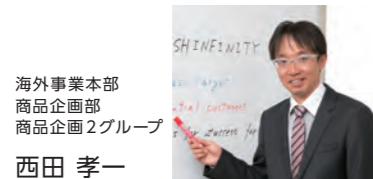
- 新たな価値、ソリューションの創出
- お客さまのニーズに合った製品の企画

### お客さま 地球環境

- 環境配慮型製品の企画

### 地球環境

- 製品ライフサイクルの企画



海外事業本部  
商品企画部  
商品企画2グループ

西田 孝一

グローリーのつり銭機は、海外のレジ業務の効率化・厳正化に貢献しています。海外ではつり銭機が顧客側に向けて設置され、顧客自身で代金の支払いやつり銭の受け取りが可能です。そのため、直接手で商品に触れるフランスのパン屋といった業態のお客さまからは、清潔さを保ちながら安心して商品を提供できると感謝いただいています。

今後も、世界各地のお客さまのニーズに合った製品を企画していきます。

## 開発

私たちは絶えざる開発の心を持ち、お客さまから信頼される製品の開発に取り組んでいます。品質の確保はもちろん、お客さまのユーザビリティの向上、環境に配慮した製品開発をタイムリーに進めています。

### お客さま

- お客さまのニーズに合った製品のタイムリーな開発
- 品質の確保
- ユニバーサルデザインへの対応
- 新技術を活用した製品の開発

### お客さま 地球環境

- 環境配慮型製品の開発

### 従業員

- ワークライフバランスの推進
- 専門スキル向上に向けた教育



開発本部  
第一開発統括部  
スイス駐在

一色 桂

「お客さまにとっての品質とは何か？」その答えを見つけるために、「地域や市場の価値観の差」を理解するよう努めています。これができるかどうかで、最終的な製品の出来は大きく変わります。「よい品質の製品=お客さまの欲しい製品」です。お客さまの立場に立って考えることで、「どのように技術を活用するか」ということが見え、お客さまにとって満足度の高い製品を提供できると信じています。

## 調達

調達部門として一番重視していることは安定調達の維持です。法令を遵守し、公平かつオープンな購買活動を通じてお取引先さまとの相互発展に努め、サプライチェーン全体におけるCSR調達を推進しています。

### お客さま

- 品質の確保と競争力のある適切な価格の追求

### お取引先さま

- お取引先さまとともにCSR調達を推進
- お取引先さまとのパートナーシップの強化
- サプライチェーンにおける人権の尊重

### 地球環境

- グリーン調達の推進
- 生物多様性への配慮



生産本部  
購買統括部  
購買調達部  
海外調達グループ

松井 友紀

私は、海外のお取引先さまから、国内・海外向け硬貨紙幣入金機の電気部品である実装基板やハーネスを購入する業務に携わっています。国内海外問わず、お取引先さまには、人権や法令遵守などに対する当社の調達への考え方をご理解していただけるよう、積極的にコミュニケーションを図り、お取引先さまと一体となって、常に安定した部品の調達ができるよう努めています。

## 生産

高品質な製品をタイムリーにお届けすることを目指しています。マザー工場である本社工場を中心に、国内および海外の各拠点の強みを活かした役割分担をすることにより、最適な生産体制を構築しています。

### お客さま

- 品質と安定供給の確保
- リードタイムの短縮
- コスト競争力の強化

### 地球環境

- 省資源化、リサイクル、リユースに配慮した生産

### 地域社会

- 工場周辺の安全

### 従業員

- 人権や労働安全衛生への配慮



生産本部  
本社工場  
電装部  
基板設計グループ

中谷 弥生

お客さまにご満足していただける高品質な製品の提供を目指し、私たちは開発部門から出てきた回路図や、仕様に合わせてプリント基板の設計業務を担当しています。決められた納期を守ることはもちろん、製造段階で不良を発生させない設計にすることが求められます。このため、常に開発部門・製造部門と連携し、品質向上に取り組んでいます。

## 販売

お客さまとのコミュニケーションを大切にしています。市場やお客さまごとのニーズを確実に把握し、現金処理業務の効率化や厳正化をはじめ、付加価値の高い製品やサービスをタイムリーにご提供できるよう努めています。

### お客さま

- お客さまのニーズに合った製品のタイムリーな提供
- 製品・サービスに関する適切な情報の提供
- 顧客情報、個人情報の管理

### お客さま 地球環境

- 環境配慮型製品の販売

### 従業員

- ワークライフバランスの推進



国内事業本部  
リテール営業統括部  
営業二部  
営業グループ

寺西 大介

私は主にレジつり銭機を担当し、POSメーカー様や製品の導入が進んでいない市場に対する営業活動を行っています。お客さまからいただいたご要望は、企画部門や開発部門と共有し、お客さまにご満足いただける最適なソリューションの提供に努めています。

また、納品後に何らかの問題が発生した場合にも、すぐに関連部門と連携して対応し、お客さまに安心して製品をご利用いただけるよう努めています。

## 保守

保守部門は、「より早く、よりの確に、より誠実に」を常に心がけ、お客さまに安心して製品をご利用いただけるよう、万全のサポート体制を構築しています。さらに、新たなサービスのご提供により、顧客満足度向上を目指していきます。

### お客さま

- スピーディーで確実な保守対応
- 顧客起点による保守品質の向上
- 顧客情報、個人情報の管理

### 地球環境

- エコカー導入
- ノンフロンガス型の清掃用品の販売

### 従業員

- ワークライフバランスの推進
- 資格認定制度による育成



保守本部  
九州支店  
熊本営業所

田中 稔

お客さまから「ありがとう」と声をかけていただけることが一番の喜びです。

お客さまに安心して製品を使用していただき、ご満足いただけるサービスを提供することが、私たちテクニカルスタッフの使命だと考えています。製品知識やメンテナンススキルの向上はもちろん、最善のサービスを提供できるよう、常にお客さまの立場で考えることを心がけています。また、後輩育成にも積極的に取り組んでいます。

# 時代とともに進化するグローリー製品

時代の変遷とともに移り変わる社会からの要請に対応し、当社は大きく可能性を広げてきました。

## 1950年代

第二次世界大戦の終結後、世界が驚くスピードで戦後復興と経済再建を果たした日本。1955年には1人当たりの実質国民総生産（GNP）が戦前の水準を超え、1956年の経済白書に記された「もはや戦後ではない」という言葉は流行語になりました。

### ■ 国産初の硬貨計数機が 2015年度「機械遺産」に認定

本機により、その後の金銭処理の省力化・高信頼化に貢献したとして歴史的価値が認められました。

※機械遺産とは、一般社団法人日本機械学会が、歴史に残る機械技術関連遺産を大切に保存し、文化的遺産として次世代に伝えることを目的に認定するものです。

### 機械遺産 Mechanical Engineering Heritage



国産初の硬貨計数機

## 自社製品時代の幕開け

### 国産初の硬貨計数機

1949年に造船ブームが到来し、当社においても造船会社からの下請けにより、船舶関連部品の生産で工場がフル稼働という状態でしたが、やがて受注が激減。そんな折、造幣局から硬貨計数機の製作を打診されました。「自社製品を開発し、下請けから脱皮しなければならない」という強い信念を持ち続けていた経営責任者の尾上壽作は、この依頼を自社製品開発の夢を実現する好機と判断。試行錯誤の末、1950年に国産初の硬貨計数機を完成させ、造幣局に納入しました。

この硬貨計数機の開発は、当社が通貨処理機メーカーとして歩み始めた原点であり、この硬貨計数機に使われている、硬貨を1枚ずつ繰出し計数する際に利用する遠心力の技術は、今日の硬貨処理機にも採用され続けている技術です。

## 1960年～1970年代

1960年代前半から1970年代初頭にかけて、東京オリンピック開催、東海道新幹線開業、日本万国博覧会開催と、経済大国への躍進を象徴するような国家イベントが目白押しでした。また、生活水準が上がり、「一億総中流」という国民意識が生まれたのもこの頃です。しかし、1973年に始まったオイルショックを機に、未曾有の経済成長は終焉を迎えました。



硬貨計数機<CPシリーズ>

紙幣計数機<GNE>

入金管理システム<PB-2>

## 成長・発展期

### 単能機からシステム機器の開発へ

高度経済成長と呼応するように、当社も成長への歩みを進めます。1960年代には硬貨包装機や硬貨選別機等を相次いで開発。加えて、紙幣処理機の開発にも着手し、「通貨処理機器の総合メーカー」としての礎を築きました。また、輸出向け硬貨包装機や紙幣計数機を開発し、海外市場の開拓にも取り組み始めました。

1970年代に入ると、製品は単能機からシステム機器へと進化し、金融機関や流通業界における現金処理の自動化や省力化に貢献。入金管理システムや多能式紙幣両替機等、お客様の要望を先取りした製品開発を行い、次々と世に送り出しました。このような先進的な開発により、オイルショック後の不況下にありながら安定的な発展を遂げました。

## 1980年～1990年代

「バブル」といわれる好景気に沸いた1980年代半ばから1990年代初頭、「ジャパンマネー」が良くも悪くも世界から注目された時代でした。そして、1991年バブルがはじけ、失われた10年とも20年とも呼ばれる長い景気低迷期に突入していきます。世界的には、米ソ冷戦終結という大転換期のなか、EUの誕生、輸送技術・IT技術の進歩等を背景に、経済のグローバル化が進んだ時代でもありました。



オープン出納システム<ADDS>

レジつり銭機<RT-1>

## 新製品による事業の拡大

### コア技術を活かした新たなチャレンジ

当社は硬貨計数機に始まり、硬貨処理や紙幣処理に関連する製品開発で事業展開を図り、技術を蓄積してきました。1986年、業界に先駆けて、金融機関の営業店向け出納機器、オープン出納システムを開発。その後も、業務の効率化、資金効率アップ等、お客様の要望や社会環境の変化に合わせ、多様化する金融機関のニーズに対応する製品を開発してきました。また、1992年には流通市場をターゲットに、自動的につり銭硬貨を放出するレジつり銭機を業界で初めて開発し、レジでの精算業務を飛躍的に効率化させるものとして大ヒット製品となりました。

一方、そうした通貨処理機の開発で培った当社のコア技術である「認識・識別技術」は、印鑑や手書き文字を見分ける技術へと発展し、新たなビジネスも生み出しました。

## 2000年～

21世紀に入り、日本は、本格的な少子高齢社会を迎え、人口減少による人材不足や格差といった課題に直面していきます。インターネットの普及やグローバル化がさらに進展し、めまぐるしく変化する世界情勢のなかで、多様な価値観を互いに認め合いながら、どのようなプレゼンスを発揮していくのかが問われる時代となりました。



小型紙幣整理機<USF-50シリーズ>

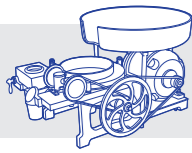
窓口用紙幣入金機<RBG-200>

## グローバルに展開

### 日本の技術を世界へ

当社グループは、現在、世界20カ国以上に直販・直メンテナンス網を展開しており、100カ国以上でグローリー製品は活躍しています。先進国を中心に、さまざまな国で導入が進む海外金融機関向け窓口用紙幣入金機は、機械の中の紙幣を自動で再計数できる自動精査機能の搭載や防犯性を高めた筐体の採用等により、業務の効率化や厳正化はもとよりセキュリティ面の強化も図ることで、銀行における安心で快適な環境づくりに貢献しています。また、紙幣流通量の多い新興国へは、紙幣の高精度な真偽判定や正損判定機能、記番号自動記録機能を搭載した小型紙幣整理機を展開するなど、通貨の信頼性向上と流通紙幣の厳正管理を実現しています。

今後も、「コア技術」をさらに進化させ、世界中の通貨の安心を支えるとともに、社会の持続的な発展に貢献し続けます。



# ガバナンス



企業理念に基づき、すべてのステークホルダーの皆さまに信頼され支持される健全で効率的な企業経営を推進します。

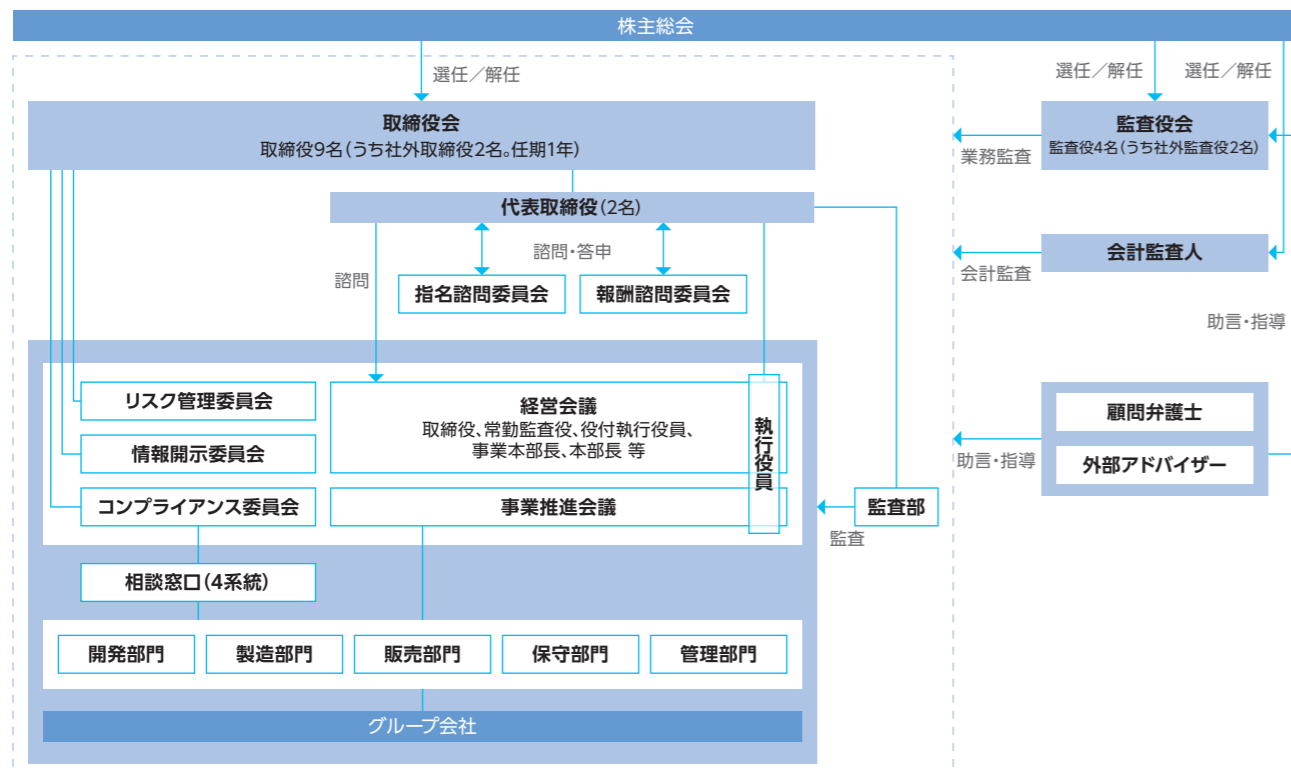
## コーポレート・ガバナンス

当社は、企業理念に基づき、社会と共生し、すべてのステークホルダーの皆さまに信頼され支持される健全で効率的な企業経営を推進することにより、継続的な企業価値の向上を目指しています。そのためには、コーポレート・ガバナンスの強化が不可欠と考え、経営における監督機能ならびに業務執行機能の強化、意思決定の迅速化、透明性および客観性の確保、コンプライアンス経営のさらなる充実等に取り組んでいます。

### コーポレート・ガバナンス体制

当社は、「監査役設置会社」を採用し、複数の社外取締役を含む取締役会において、経営の重要課題に関する意思決定と業務執行の監督を行い、監査役会がそれを監視する体制をとっています。また、執行役員制度導入により、経営の監督機能と業務執行機能を分離し、事業経営の迅速化や効率性の向上に努めています。加えて、指名諮問委員会、報酬諮問委員会等を設置し、経営の重要事項決定における透明性、客観性の向上に努めています。

### コーポレート・ガバナンス体制 (2016年4月1日現在)



### 「コーポレート・ガバナンス・ガイドライン」の制定

当社グループの持続的成長と中長期的な企業価値の向上に資することを目的に、2016年2月に「コーポレート・ガバナンス・ガイドライン」を制定しました。本ガイドラインに沿った経営を推進し、一層のガバナンス体制の強化に努めていきます。

## リスクマネジメント

### リスクマネジメント体制

当社は、社長を委員長とする「リスク管理委員会」を設置しています。同委員会では、リスク管理マニュアルにおいて選定されたリスク項目ごとに主管部門・責任者を定め、平時における予防措置を実施するとともに、危機発生時には迅速に対応できる体制を確保するなど、グループ全体におけるリスク管理を統括しています。2015年度には、近年のグローバルな事業拡大に伴い、海外を含めたグループ全体のリスクマネジメント強化やBCP(事業継続計画)の実効性確保に向けた検証の実施等を重点的に行いました。

## コンプライアンス

当社は、コンプライアンス体制の確保・向上に向けた施策の一つとして「コンプライアンス委員会」を設置しています。社長を委員長、社外有識者(弁護士)2名を含む構成とし、コンプライアンスに関する重要な問題を審議しています。また、当社はグループを含めた社員のコンプライアンスの相談窓口(ヘルプライン)として、社外窓口を含む4つの相談窓口

を設置し、問題の早期発見や是正に努めるとともに相談者の保護にも努めています。加えて、コンプライアンスの徹底に向けた社員への教育にも注力しており、2015年度は、開発部門での重要情報のさらなる管理徹底を目指し、管理者および実務者を対象に集合研修等を実施しました。

## 社外取締役メッセージ

社外取締役  
佐々木 宏機



2008年6月 当社取締役に就任  
指名諮問委員会 委員長  
報酬諮問委員会 委員長

“コーポレート・ガバナンス”という、従来は不祥事の防止といった守りの側面が強かったと思いますが、今後は、継続的に企業価値を高め、社会的責任を果たしていくことで、グローバル企業としてさらに発展するという攻めの姿勢とのバランスを取っていかねばなりません。この姿勢を明確にするため、当社は本年2月に「コーポレート・ガバナンス・ガイドライン」を制定しました。取締役全員がこのガイドラインへの共通の理解と認識のうえに立って価値観を共有しておけば、あとは各方針や施策の実効性をどう高めていくか、またその具体的方法をどう判断するか。私たちの責務はこの2点に絞られると考えております。

継続的な企業価値向上の鍵は、中長期の経営計画に対する取り組みにあります。この計画は、株主をはじめとするステークホルダーへのコミットメントであることを強く認識し、達成に向け最善を尽くすとともに、適宜進捗状況の確認や対策を実施する。そして、その結果を社内外に透明性をもって説明し、納得を得る努力をしたうえで、次期計画に反映させていく。これらを不断に実行できる会社こそが、持続的に発展を遂げ、企業価値を高めていくことができるということを改めて強調しておきたいと思っております。

当社はこれまでも時代の変化に対応し、ガバナンスに関わる改革を着実に進め、事業の拡大と相まって、ステークホルダーからの負託に応えてまいりました。今後、グローバルな競争は一段と厳しさを増すことが予測されますが、私はこのような状況を新しいグローリーグループを築き上げるチャンスと前向きに捉え、微力ながら尽力してまいりたいと思っております。

社外取締役  
新島 昭



2008年6月 当社取締役に就任  
指名諮問委員会 委員  
報酬諮問委員会 委員

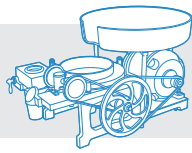
“コーポレート・ガバナンス”という堅苦しい印象を受けますが、わかりやすい言葉では「コミュニケーション」だと思います。

企業は、企業価値の向上を追求する過程において、自らの利益のみならず、多様なステークホルダーとの関係に配慮しつつ事業活動を展開しなくてはなりません。私の言う「コミュニケーション」とは、経営を左右するステークホルダーとの関係性を適切に保つための経営の立場からのものですが、これは各現場においても同じです。各人が意思を持って行動し、忌憚のない意見を交わしたうえで成果を上げれば、コミュニケーションの線がつながる。経営陣が普段からこうした土壌を整えておけば、方針を出したとき、それがずっと現場に下りて行くことになるのです。

当社グループは、非常に風通しのよい会社です。その風土を深化させ、当社のDNAでもある“不屈の精神”で製品開発に取り組み、社会の発展に貢献する製品を生み続けてほしいと願っています。

2012年、英国のタラリス社を買収したことで、よりグローバルな視点でのコミュニケーションが必須になりました。全世界でコミュニケーションを網の目のように張りめぐらせ、意思決定のスピードを高めれば、より強い競争力を持ったグローバル企業になると思います。

今後もこのような視点を大切に、さらなる企業価値向上に向け、社外取締役として尽力してまいります。



# 品質への取り組み

製品の企画、開発から保守にいたるすべての段階において、お客さまの信頼と満足を得る製品とサービスをタイムリーに提供します。

## 製品品質に対する考え方

当社は、1994年4月に品質方針を制定し、3つの重点指向を掲げ、国内外すべての生産拠点で品質基準の統一に努めています。お客さまのニーズに対応し、信頼に応える製品とサービスを提供していくために、製品の企画段階から開発、調達、生産、販売、保守にいたるすべての段階において、徹底した品質活動を実施しています。


また、本社工場や埼玉工場をはじめ、すべての製造系グループ会社においてISO9001の認証を取得し、それに則った品質保証体制を構築しています。

品質方針

お客さまの信頼と満足を得る製品とサービスをタイムリーに提供します

3つの重点指向

- 1 市場のニーズを先取りし、魅力ある製品開発を行う
- 2 源流で品質を作り込む
- 3 出会いの品質とアフターサービスを大切にする



## 海外における高品質な製品づくり

当社は、国や地域ごとに部品や原材料の調達、生産方式、労働力等を総合的に判断し、最も合理的な拠点で生産を行う最適地生産に取り組み、グローバル生産体制の確立を進めています。

海外では日本と異なる文化や市場環境を持っているため、フィリピンと中国の海外生産拠点では日本と同様の生産方式ではなく、海外生産の特性を活かした生産方式をとりながら、日本と同等の品質レベルを維持できるよう努めています。また、「マザー工場」である本社工場と緊密に連携し、品質情報や活動事例をタイムリーに共有するなど、グローバルで品質を保証する体制を構築しています。

### 生産・検査工程における作り込み

当社の製品は、企画段階においてその製品に適切な生産拠点を決定しています。海外拠点での生産が決定すると、立ち上げ段階から、生産部門だけでなく、開発部門や品質保証部門が一体となり、現地の社員と連携しながら現場に適應した生産方式を構築しています。本格的な生産が始まると、徹底した部品の員数管理や日本よりも厳しい検査工程を実施



徹底した部品の員数管理

するなど、安定した品質の維持に努めています。また、本社工場の品質保証部門が直接現地に出向き、定期的に品質監査を実施することで、徹底した品質の確保に取り組んでいます。



品質保証部門による品質監査

### 品質を支える人材の育成

国内外すべての拠点において高品質な製品の生産を実現していくために、現地社員の教育に注力しています。

GLORY (PHILIPPINES), INC. では、2000年より日本の本社工場での研修を実施しています。研修生は1年間を通して、製造技術や品質向上に向けた取り組み、日本の文化・慣習等を学び、帰国後は、日本で学んだことを職場に展開し、現地のリーダーとして活躍しています。2015年度は、4名の社員が研修生として来日しました。これまで76名の社員が日本での研修を受講しています。



組み品の取り付け方を学ぶ研修生

WEBで詳細な情報がご覧いただけます。  
[品質方針] <http://www.glory.co.jp/csr/stakeholder/customer.html>



[保守サービス] <http://www.glory.co.jp/support/feature.html>



## お客さまへの対応・サポート体制

### 東西2カ所にコールセンターを設置

当社の保守サービスは「FAST」主義をポリシーに掲げ、より早く(Fast)、より的確に(Accurate)、より誠実に(Sincerity)、を常に心がけ(Think)、お客さまの安心と信頼、満足にお応えできるよう努めています。

製品の操作方法問い合わせ・トラブル対応依頼・修理依頼等、国内のお客さまからの機器やシステムに関するすべてのお問い合わせは、総合窓口である自社直営のコールセンター(東京・大阪)で受け付けています。

コールセンターでは、常時約100名のオペレーターが待機し、独自のシステムによるエラー検索やTS(テクニカルスタッフ)マッピング機能を活用しながらスピーディーな問題解決を図ります。また、訪問対応が必要な場合は、後方の保守支援スタッフにつなぎ、全国に配置している約1,000名のテクニカルスタッフを迅速に派遣。お客さまの問題をいち早く解決に導けるよう、万全のサポート体制を整えています。

3コール以内で  
素早く応答

エラー検索システム

お客さまの機器と同じ機種の画面を呼び出し、お客さまと同じ目線でトラブルを解決

TSマッピング

テクニカルスタッフの現在位置と行動スケジュールを確認し、正確な到着時間をご案内

### お客さま対応力向上への取り組み

コールセンターでは、より早く、より確実なサービスを提供するため、お客さまへの対応力・サポート力の向上に取り組んでいます。

お客さまのコールを最初に受けるオペレーターについては、個々のレベルに応じたパーソナルトレーニングを実施するなど、お客さまとのスムーズなコミュニケーションの実施に努めています。

### コールセンター見学対応

当社は、コールセンターを見学していただく機会を積極的に設けています。製品購入後の一連の保守対応をご説明し、当社の保守サービスに対する理解を深めていただくことで、安心して製品をご利用いただけるよう努めています。

2015年度は、79社のお客さまにご見学いただきました。

## Voice

私が所属するサービス品質グループは、コールセンター業務の標準化とサービス品質の向上に取り組んでいます。各コールセンターでは、定期的に対応スキル向上に向けた研修を実施し、研修内容を録画した映像を共有することで、どのコールセンターでも同レベル・高品質なサービスを提供できるよう努めています。

コールセンターには、お困りのお客さまから電

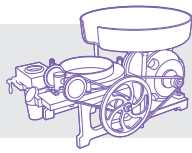
話がかかってくるため、お客さまの立場に立って対応することを最優先に考えています。最終的に困りごとが解決できた際には、「グローリー製品を使ってよかった」と感じていただけるよう、“おもてなし”の心を大切にしています。

今後も、お客さまの安心感や満足度向上につながるサービスをご提供できるよう努めていきます。



株式会社グローリーテクノ24  
コールセンター  
サービスサポート部  
サービス品質グループ  
吉田 綾子





# 人材への取り組み



社員の多様性、人格、個性を尊重し、安全でかつ、うれしい、働きがいのある職場環境の実現を目指します。

## 人材育成

### グローバル人材の育成

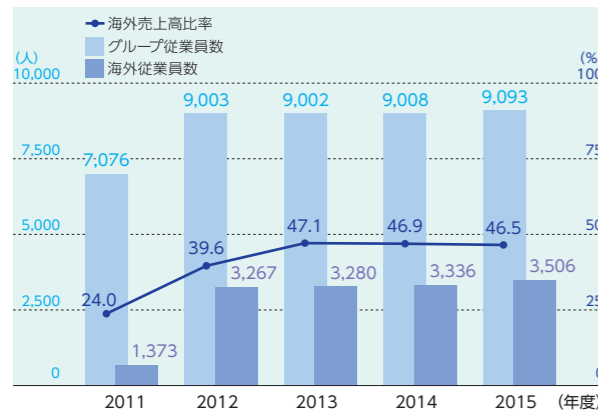
当社グループは、2012年度に実施した英国・タラリス社の買収により、海外売上高、海外従業員数ともに増加し、現在、連結売上高に占める海外売上高比率は約47%、グループ全体の海外従業員比率は約39%となっています。こうした状況から、グローバルな事業展開を支える人材の育成に注力しており、「海外短期留学制度」や「海外トレーニー制度」をはじめ、さまざまな施策を実施しています。

また、海外グループ会社の現地社員との人材交流にも積極的に取り組んでいます。



Japan Meeting 2016の様子

### 海外売上高比率と海外従業員数の推移



### 海外短期留学制度

この制度は、3カ月間、アメリカやイギリスの語学学校に通い、ビジネスに通用する語学力とビジネススキルの習得を目指すものです。多様な考え方や価値観、異文化に触れることで、語学力の向上だけでなく、グローバルな視点を持った人材の育成につながっています。

2015年度は、5名の社員が制度を利用しました。



語学学校での授業風景

### 海外トレーニー制度

この制度は、約1年間にわたり海外グループ会社でOJTを行い、グローバルに活躍できる経験とスキルを持った人材の早期育成を目的としています。

2015年度までに、開発部門や営業部門等の19名の社員が制度を利用しました。



Glory Global Solutions Ltd. (イギリス)での研修風景

### キャリア形成に向けた新たな取り組み

当社は、2014年度に、社員のモチベーションや理念の浸透度等に関する「社員意識調査」を実施しました。

2015年度は、この調査結果を社員にフィードバックするとともに、人材育成施策や人事制度の運用面の見直しに重点的に取り組み、新たに「キャリア面談」や「リーダーシップ・チャレンジ プログラム」をスタートさせました。

### 「キャリア面談」の実施

2015年度より、社員が業務を通して培った知識やスキルを明確にするための人材データベースシステムを導入しています。そのデータを元に、上司と部下の間でキャリア面談を実施することで、キャリアの方向性が描きやすくなりました。最終的に、一人ひとりが自身のキャリアビジョンを持つ自律型人材を育成し、その能力を最大限に発揮できるようにつなげていきます。

### 「リーダーシップ・チャレンジ プログラム」の実施

このプログラムは、一般職上位層の社員を対象に、次期管理職候補者の発掘・育成やマネジメント力の強化を目的に実施しています。受講者は、リーダー（管理職）に求められる役割理解とマネジメントに必要なコミュニケーション能力を身につけるプログラムを通して、目指すべきリーダー像を自身で描き、行動変容を促すきっかけとします。

2015年度は、64名の社員がこの研修を受講しました。



リーダーシップ・チャレンジ プログラムの様子

## ダイバーシティ推進

性別や国籍、障がいの有無等を問わず、社員一人ひとりが能力を最大限に発揮し活躍できる環境づくりを目指しています。

### 女性活躍推進

当社は、2011年度より、女性のより一層の活躍推進に取り組んでいます。当社の2015年度末時点の女性社員比率は、12.5%です。2016年度からは、「女性活躍推進法」の施行に合わせ、「新卒採用における女性の割合を2割に増加させ、3年間継続する」、「管理職（課長級以上）に占める女性の人数を5年後に2倍にする」を行動計画として、全社を挙げて取り組みを進めていきます。

### 「グローリーウィメンズカレッジ」の実施

2012年度より、女性社員の意欲的に働く意識の醸成と管理職候補者の育成を目的に、「グローリーウィメンズカレッジ」を開講しています。年間を通じた研修により、キャリアアップに関する意識改革に取り組んでいます。毎年10名がカレッジ生となり、現在40名の卒業生を輩出しています。



グローリーウィメンズカレッジの様子

### 障がい者雇用

障がい者の自立を支援し、社会で活躍する場を提供することを目的に、1999年に特例子会社としてグローリーフレンドリー株式会社を設立しました。“人と人のふれあいを大切にしながら、自分たちの持っている力を十分に発揮し、創造ゆたかな職場をつくっていく”ことをスローガンに、主に構内美化・緑化作業、社内書類・郵便物の集配、廃棄物管理等の業務を担っています。2015年度末時点の障がい者雇用率は、2.26%となっています。



「いいこの広場」の手入れをするグローリーフレンドリーの社員

## ワークライフバランス

さまざまなライフスタイルを持った社員が働きやすく、能力とキャリアを最大限に発揮できるよう、ワークライフバランスの充実にに向けた取り組みを推進しています。

### 両立支援制度

育児短時間勤務の取得可能期間を子どもの小学3年生修了までと設定し、その間は勤務時間を30分単位で取得できる制度を導入するなど、社員が仕事と育児を両立して活躍できる環境づくりを推進しています。

### 時間外労働に対する取り組み

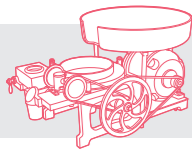
社員が、心身ともに健康で生き生きと働き続けることができるよう、業務や働き方を見直し、恒常的な長時間労働を抑制する取り組みを進めています。

2015年度は、残業をしない効率的な働き方を意識づけるため、定時退社日を週1日から週2日とし、毎週水曜日と金曜日を「ノー残業デー」として設定しました。また、部門ごとに業務終了時間や消灯時間を設定し、早帰りの定着化を図りました。

## 人権の尊重に向けた取り組み

当社グループの全社員が遵守すべき行動規範である企業行動指針に“人間尊重・人材開発・労働安全”に関する項目を掲げることにより、社員の多様性、人格、個性すなわち人権尊重を謳っています。また、当社グループだけではなくサプライチェーンにわたって徹底していくことが重要であると認識し、「グローリーグループCSR推進調達ガイドブック」に人権への配慮について明記し、お取引先さまとともに遵守に向けた取り組みを進めています。

当社グループは、国連が提唱する「人権・労働・環境・腐敗防止」についての普遍的原則である国連グローバル・コンパクトへ署名・参加しており、今後も、人権を尊重した経営に取り組んでいきます。



# 社会貢献への取り組み

WEBで詳細な情報がご覧いただけます。  
http://www.glory.co.jp/csr/stakeholder/community.html



企業と社会の利益の調和と発展を図り、「良き企業市民」として積極的に社会貢献活動を行います。

## 事業活動を通じた社会貢献活動

### 『2015年ミラノ国際博覧会』日本館に協賛

2015年5月から6カ月間、イタリア・ミラノにおいて「地球に食料を、生命にエネルギーを」をテーマに、『2015年ミラノ国際博覧会』が開催されました。

当社は、日本館からの要望を受け、日本食を体感できるレストランでスマートな運営を可能にするシステムを提供しました。多くの来場者が訪れる日本館で、スピーディーな注文や支払いができるよう、専用券売機やバックヤードのシステムを提供するなど、円滑な店舗運営をサポートしました。



ユーロ紙幣と日本紙幣の使用を可能にした専用券売機

### 沖縄県警察本部へ製品を貸し出し

沖縄県警察本部から、押収した現金を計数するため現金計数機の貸し出しを相談された琉球銀行様のご紹介を受け、当社沖縄営業所では、沖縄県警察本部へ紙幣計数機2台と硬貨計数機5台を貸し出しました。製品や警察官用の操作マニュアルの早急な準備や製品運搬協力等の対応が評価され、2015年8月、感謝状をいただきました。



沖縄県警察本部から感謝状をいただきました

## 次世代の育成支援

### グローリー小学生育成財団

当社は1995年3月、地域における小学生の健全な育成に寄与することを目的に、「公益財団法人グローリー小学生育成財団」を設立しました。スポーツや芸術・文化に関する事業に取り組み、「科学体験教室」や「親子体験教室」、「こども劇場」等を実施。設立以来、延べ92,000名以上の方に参加していただいています。

また、スポーツや科学、文化を通じて小学生の健全な育成を目指す団体への活動助成等も行っています。

### ● 科学体験教室

科学体験教室は、当社の社員と一緒に、子どもたちが工作にチャレンジしながら、科学のおもしろさを体感し、子どもたちの豊かな創造力やユニークな発想の芽を育てることを目的に開催しています。

2015年度は、3年生から6年生までの小学生200名が参加し、カム機構を応用した「カムカムカー作り」に挑戦しました。



社員と一緒にカムカムカー作りに挑戦



完成したカムカムカー

### ● こども劇場

こども劇場は、未来を担う子どもたちの純真な心や自由な発想を育む情操教育の場を提供することを目的に開催しています。

2015年度は、小学生と保護者3,000名をご招待し、劇団四季によるミュージカル「人間になりたがった猫」を上演しました。



「人間になりたがった猫」観賞中の様子

### ● 親子体験教室

親子体験教室は、さまざまな体験を通して、親子で感動を分かち合い絆を深めていただくことを目的に、毎年春と秋に開催しています。

2015年度は、5月に「劇団四季『ライオンキング』鑑賞とバックステージ見学ツアー」を開催し、抽選で小学生と保護者93名をご招待しました。また、11月には「親子体験"秋"教室～熱気球にのろう!～」を開催。小学生とその保護者300名をご招待し、地元の小学校において、熱気球の係留飛行体験や熱気球教室を実施しました。



「ライオンキング」観賞前の様子



校庭で熱気球搭乗体験

## その他の社会貢献活動

### 「世界遺産姫路城マラソン2016」に協賛

当社は、2016年2月に開催された「世界遺産姫路城マラソン2016」に協賛しました。開催当日は、50名の社員がボランティアとして参加し、走路員として約6,000名のフルマラソンランナーをサポートしました。

また、多数の社員ランナーが出場し、ゴールを目指して爽やかな汗を流しました。



ランナーに声援を送る社員ボランティア

### 間伐材を利用した積み木づくり

環境保全や次世代育成支援に貢献することを目的に、当社埼玉工場の社員63名が、NPO法人森のライフスタイル研究所の支援のもと、間伐材を活用した積み木づくりを行いました。参加者が、積み木のピースを一枚ずつ丁寧にやすりで磨きあげ、完成した400個の積み木は地元の幼稚園に寄贈しました。



リラックスした雰囲気の中で積み木づくりに取り組む社員

### フィリピンでの教育支援活動

2015年8月、Technological University of the Philippinesが実施しているキャリアシンポジウムに、卒業生であるGLORY (PHILIPPINES) INC.の社員が招待され、環境科学を専攻している学生に対して、自身のキャリアをテーマに講義を行いました。

このシンポジウムは、環境保全に取り組む企業で働く卒業生たちが、大学3年生の学生に、実際の仕事の現場で学んできた知識や経験を伝えることで、仕事に対する理解を深めてもらうことを目的に開催されています。



GLORY (PHILIPPINES) INC.社員による講義の様子

### TFTプログラムに参加

当社は、2011年より、本社内の社員食堂で「TABLE FOR TWO (TFT)」プログラムに対応したメニューを提供しています。世界では10億人が飢餓に苦しむ一方、10億人が肥満に悩んでいると言われています。TFTプログラムはこの不均衡を解消するため、社員食堂で生活習慣病の改善に役立つヘルシーで栄養バランスのとれた食事を提供し、その食事代金の一部を開発途上国(ウガンダ、ルワンダ、マラウィ、エチオピア)の子どもたちの学校給食として寄付するものです。気軽に参加できる社会貢献として社員からも好評です。

2015年度は18,570食、累計57,566食の給食が寄付されました。



日替わりで提供されるTFTメニュー



### 骨髄ドナー登録デー

2015年10月、ドイツ骨髄ドナーセンター主催のドナー登録デーがGlory Global Solutions (Germany) GmbHにて開催されました。「Save a life」という標語のもと、30人を超える社員がこのキャンペーンに参加し、自身の組織型を登録しました。



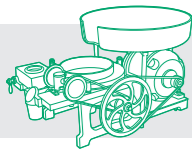
ドナー登録の様子

### サハラ砂漠の子どもたちへの支援

Glory Global Solutions (Spain) S.A.をはじめ、Glory Global Solutionsグループ7カ国の社員が寄付を募り、サハラ砂漠に住む遊牧民の子どもたちに、自転車や衣類、さまざまな言語の書籍等を寄付しました。



集まった物資をサハラ砂漠の子どもたちへ寄贈



# 環境への取り組み



環境ビジョンに基づき、グループ全体で環境活動を推進しています。

当社グループは持続可能な社会の実現に向けて、「製品」「事業」「意識」の3つの分野を柱とする環境ビジョンを策定し、「地球温暖化の防止」や「化学物質の管理・削減」、「資源の有効活用」、「生物多様性の保全」を重要課題として掲げています。

この環境ビジョンに基づき、2015年4月からの3か年を計画期間とした「2017中期環境計画」を策定し、グループ全体で取り組みを進めています。



## 環境に配慮した製品の開発

当社グループは、製品のライフサイクルにおける環境負荷の低減に向け、環境に配慮した製品の開発を進めています。

2015年度に開発したG-エコ製品\*のうち、スーパーマーケット、飲食店、専門店等で使われる紙幣硬貨入金機<DSS-500>は、従来機に比べて使用時の消費電力量を約33%削減しました。また、リサイクル可能率92%を達成しています。



## 環境に配慮したメンテナンス製品

エアダスター<リサイクルジェット>は、電気製品や精密機器に付着したゴミやホコリを除去するエコ・メンテナンス製品です。本製品は、エアダスターによく使われている代替フロンを使用せず、産業副産物として回収された炭酸ガス(CO<sub>2</sub>)を噴射ガスとして充填しています。これにより、地球温暖化係数が既存品に比べ約1,430分の1となり、地球温暖化防止につながります。加えて、ポンペを着脱式にし再利用可能にしたことで、廃棄物の削減も図ることができます。

また、全国100カ所以上の保守拠点網を活用し、テクニカルスタッフが日常の保守作業時に使用済みポンペを回収したあと、提携している炭酸ガス充填工場で再充填する独自の循環型スキームも構築しました。

これらの取り組みが認められ、日刊工業新聞社主催の「第18回 オゾン層保護・地球温暖化防止大賞」において優秀賞を受賞しました。



## Voice

我々の部署のミッションは、グループ全社の環境活動を推進していくことです。その中で、リサイクルジェットを採用した理由は、大きく分けて3つあります。まず1つ目は、フロングスの低減です。グローリー様から提案を受けるまで、エアダスターに使用されているフロングスは盲点になっていました。また、リサイクルジェットには炭酸ガスだけが充填されているため、使用した量と合わせ、削減したフロングスの量の算定がしやすくな

るというメリットもあります。2つ目に、再利用可能なポンペを使うことにより、循環型社会に貢献できる製品であること。3つ目は、安全性の高さです。不燃性の炭酸ガスを使用しているため引火の危険性もなく、うっかり吸いこんでしまっても健康への影響がありません。今後もリサイクルジェットのような環境に配慮した製品を活用しながら、環境負荷の低減に取り組んでいきます。



## 環境に配慮した新工場の建設

本社内の部品加工や板金、組立等の部門を集約し、生産技術開発機能の強化を図ることを目的に、工場の建て替えを行い、2015年9月より稼働を開始しています。

新工場では、空気の重力換気を促す換気塔(エコボイド)を配置し、各階の窓の開閉とともに自然換気を効率的に行うほか、太陽光発電システムやLED照明を採用するなど、環境に配慮した設計となっています。

また、旧工場跡地には、自然に囲まれたスペースで社員同士が交流し、コミュニケーションを図りながら新たな発想を生み出していく「いこいの広場」を設けました。



## 生物多様性保全活動

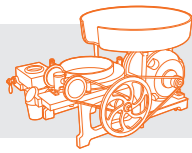
当社は、2011年度より生物多様性の保全・維持を目的に、「グローリー夢咲きの森」(兵庫県姫路市)や長野県の山林にて森林整備活動などに取り組んでいます。

2015年度は「グローリー夢咲きの森」で生物調査を実施し、カヤコオロギやアオゲラなど、県指定の貴重種10種の生息を確認しました。また、グループ会社であるグローリーエンジニアリングでは、2007年度より「高尾の森植樹祭」に参加するなど、グループ全体で環境保全活動を推進しています。



## 2017中期環境計画 2015年度実績

活動分野	活動テーマ	2017中期環境目標	2015年度目標	2015年度実績
製品 環境に配慮した製品の開発	地球温暖化の防止	従来機比CO <sub>2</sub> 排出量の15%以上削減(全新製品平均)	15%以上削減(2015年度開発製品)	平均27%削減(7機種のうち5機種で目標達成)
	化学物質の管理・削減	全新製品のRoHS指令適合	法令遵守100%	RoHS指令・EU向け製品の変更部品の適合を確認 REACH規制:SVHC含有量調査。制限物質の不使用を確認
	資源の有効活用	ライフサイクルにおける部品製造時のCO <sub>2</sub> 排出量10%以上削減	3%以上削減(2015年度開発製品)	平均3.4%削減(部品数削減による) (7機種のうち5機種で従来製品と同等以下)
事業 事業活動に伴う環境負荷の低減	地球温暖化の防止	製品売上高に占める環境配慮型製品の売上高55%以上 エネルギー消費原単位の年1%削減(2010年度基準)	売上高45%以上 年平均原単位1%削減	売上高比率51.1% エネルギー消費原単位 年平均2.6%削減
	化学物質の管理・削減	グローバルでの化学物質管理の徹底	現状把握 計画立案	海外グループ会社とのカンファレンス実施 化学物質に対する管理手法の詳細を確認
	資源の有効活用	廃棄物排出量の年1%削減(2010年度基準)	管理限界管理	廃棄物排出量 年平均1.7%削減
意識 環境意識のインベーション	生物多様性の保全	グローリー夢咲きの森における生物多様性保全への貢献度向上(植生調査の継続と管理項目の改善)	植樹20本 間伐1ha 生物調査実施	里山保全活動実施4月4日(植樹20本、間伐1ha) 家族向け自然体験イベント10月17日実施 生物調査9月25、26日実施(貴重種10種の生息を確認) 関東:東京都荒川河川敷清掃、長野県佐久市での森林整備活動 間伐材から製作した積み木を幼稚園に寄贈
		ステークホルダーとの協働による生物多様性保全活動の推進	計画立案 活動実施	姫路:家族向け自然体験イベント(お取引先さまご家族の参加2組) 関東:長野県森林整備活動(お取引先さま社員参加10名) 積み木の製作
		環境保全に関する社会貢献活動のグローバル展開	現状把握 計画立案	海外グループ会社へのアンケート調査実施 海外グループ会社による生物多様性保全活動、清掃活動の実施



# ステークホルダーとの対話

ステークホルダーに対する情報の適正な開示と、相互間の対話・協働に努めます。

## ■ お客さまとの対話

日本はもとより世界各国で、当社グループの製品やサービスをご紹介します、より多くのお客さまと直接対話する機会を設けています。

国内では、「GLORY PRESENTATION FAIR」をはじめとしたプライベート展示会を開催するほか、「リテールテック JAPAN」や「国際モダンホスピタルショウ」等にも出展。海外においては、ドイツで開催される「EuroCIS」をはじめ、「Global Gaming Expo(G2E)」(アメリカ)や「CIFTEE」(中国)等に出席しています。

また、国内外のお客さまを本社工場や埼玉工場へご案内し、製造現場をご見学いただくことで、当社の生産体制や品質管理についての理解を深めていただいています。



GLORY PRESENTATION FAIR 2015 海外展示会の様子

## ■ 株主・投資家との対話

当社は、適時かつ正確公平な情報開示によって経営の透明性を高めるとともに、建設的な対話を通じて、当社の経営方針や事業活動への理解につなげ、株主・投資家の皆さまとの長期的な信頼関係の構築に努めています。2015年度は、株主総会後に「株主さま向けショールーム見学会」を開催したほか、機関投資家向け決算説明会や個人投資家向け会社説明会等を実施しました。

また、ウェブサイト内に株主・投資家向け専用サイトを設け、四半期ごとの決算説明資料、株主さま向け報告書、アニュアルレポートをはじめとした資料を開示し、タイムリーな情報開示と利便性の向上を図っています。



株主さま向けショールーム見学会 個人投資家向け会社説明会

## ■ お取引先さまとの対話

お取引先さまは、高品質な製品を安定的に生産していくための大切なパートナーであり、協力体制の確立が不可欠です。そこで、年に1回「お取引先懇談会」を開催し、お取引先さまに対して、当社グループの現況や戦略等をご説明し、信頼関係の構築に努め、ともに持続可能な社会の実現に貢献していくことを目指しています。2015年度は、初めてGLORY (PHILIPPINES) INC.においても実施し、56社のお取引先さまにご参加いただきました。

また、お取引先さまに品質改善事例を発表していただく「品質向上活動発表会」を開催し、お取引先さま間の情報共有を図る場として活用していただいています。



お取引先懇談会 GPIお取引先さま向け工場見学会

## ■ 社員との対話

当社は、2012年度より、社長をはじめ経営幹部と社員が対話する場として「社長と語る会」を開催しています。社長自らが理念や事業状況を説明し、経営幹部と社員がコミュニケーションを通して相互理解を図ることで、経営活動に対する参画意識やモチベーションの向上につなげることを目的としています。2015年度は、全国12拠点で開催しました。

また、経営幹部が積極的にグループ会社を訪問し、グループ会社社員と交流することで、グローリーグループ全体の一体感醸成につなげています。



社長と語る会(本社・本社工場)

## 第三者意見

### 社会貢献と同軸線上にある事業活動

「グローリーCSR報告書2016」では、「セキュア(安心・確実)な社会の発展への貢献」という企業理念の実現と社会貢献とが同軸線上にあること、そして、国連グローバル・コンパクトへの署名・準拠によるグローバルレベルでの取り組みの確保と、トップのコミットメントが明確に示されています。

特集1では、バリューチェーンにおけるCSRの取り組みが、ステークホルダーごとに整理されています。企画、開発から保守までの一貫体制を持つグローリーには、バリューチェーン全体でCSR課題に取り組むことができる強みがあります。例えば、マテリアルフローコスト会計を導入すれば、バリューチェーン全体を見通したうえで改善策が実施でき、CSR課題の解決とコスト削減の両方を実現できる可能性があります。特集2では、製品を通じた社会貢献の歴史として、自社製品の開発と成長、コア技術を活かした革新、グローバル展開推進にいたる軌跡が描かれています。

報告書全体を通して、ガバナンス、品質への取り組み、人材への取り組み、社会貢献への取り組み、環境への取り組み、ステークホルダーとの対話における地道な取り組みの積み重ねと成果が「誠実」に報告されています。記述の明瞭性・網羅性・(社外と社内の声を含めるなど)中立性が確保され、「信頼」性を備えたものといえます。環境への取り組みについては、製品・事業・意識のそれぞれにおける中期環境目標・年度目標・実績が、具体的なKPIs(Key Performance Indicators)とともに開示されており、「真摯」な取り組みがわかります。社会貢献活動では、多くの社員が積極的にさまざまな地域活動に参加し、「良き企業市民」を実践しています。

また、2016年2月に制定された「コーポレート・ガバナンス・ガイドライン」には、「CSRとサステナビリティ」が含まれており、ガバナンスの強化によって企業価値向上を支えるしくみや透明性を確

### 阪 智香氏

関西学院大学商学部教授

商学博士。現在、日本学術会議連携会員、日本社会連合会計学会理事、全国ビジネス系大学教育会議理事等。著書に『環境会計論』(東京経済情報出版)等。日本会計研究学会学会賞、Taiwan Accounting Association 2015 Annual Best Paper Award (最優秀論文賞)等受賞。



保し、そのうえで、良き企業市民として培ってきた企業文化や歴史・経験を大切にしながら、企業理念・経営理念を、企業行動指針を通して、全社員で体現していこうとする姿勢が見て取れます。

### 創業一世紀のその先へ

2018年に創業一世紀を迎えるにあたり、グローリーは「長期ビジョン2018」を策定し、長期基本方針では「CSR活動を通じて、社会とともに継続的な企業成長を図る」と述べています。海外売上高比率が50%に達しようとするこれまでにない事業環境において、さらなる新興国攻略やグローバルな人材の育成を進めるうえで、CSRはSoft Lawとして、価値観の衝突を回避し、解決策を探り、事業活動のチャンスを広げる有効な手段となるでしょう。この観点からも、グローリーグループがCSRを大切にしながら、企業と社会のサステナビリティに向けた展開をしていることは確実です。

今後は、現在進行中のマテリアリティ特定作業の結果に基づき、CSRのKPIsと企業価値向上のKPIsが中長期的に有機的にリンクするような戦略の設計、具体的なアクションプランとKPIsの進捗管理が望まれます。本業とCSRが一体となり、グローリーの強みである技術力・ソリューション提案力をバネにして、どのような変革が生み出されるかが楽しみです。

## 第三者意見を受けて

阪先生には、当社グループのCSRに対する貴重なご助言をいただき、誠にありがとうございます。

当社グループはCSRを、企業理念の精神を各々の持ち場で実践すること、良き企業市民であり続けたいとの思いを日頃の行動の中に取り込むこと、と捉えております。普段はあまり目立たない取り組みを「誠実」、「信頼」、「真摯」という過分なお言葉でご評価いただきましたことは、今後の活動への大きな励みとなります。また、グローバルに

事業を展開していくなかで、Soft LawとしてCSRを活用するという新たな視点は、今後の事業活動に是非とも取り入れてまいりたいと思います。

引き続き、「セキュア(安心・確実)な社会」の発展に貢献できるよう本業とCSRの一体化に取り組まるとともに、ステークホルダーの皆さまに対し、これらの活動に関する適切な開示に努めてまいります。



グローリー株式会社 代表取締役専務執行役員 三和 元純

# グローリー株式会社

〒670-8567 兵庫県姫路市下手野1-3-1

TEL (079)297-3131(代表)

FAX (079)294-6233

www.glory.co.jp

本報告書に関するお問い合わせ

コーポレートコミュニケーション部

TEL (079)294-6317 FAX (079)299-6292

## We Secure the Future

思いをかなえる 技術で見つめる 確かな未来



※表紙は、2015年度「機械遺産」に認定された国産初の硬貨計数機です。  
本報告書の特集2(P.9-10)にてご紹介しています。

